

まち歩きマップ2

懐かしい景色にであえる 大島とあるき

ルートガイド

⑤ 大島であい公園

430m
6分



① 春日神社

20m
1分



② 大日堂

580m
9分



③ 若城浄瑠璃石碑

910m
13分



④ 八坂神社

580m
9分



⑤ 景福寺

1480m
22分



⑥ 大島であい公園

コース周遊
4.0km
2時間30分



大島さとあるき コースの見どころ



大島小学校区・大島であい公園

猪名川町の原風景を今も色濃く残す町北部地域。田園風景や伝統行事など、どこか心なつかしい風景に出会える大島小学校区のさとあるきを楽しむコースです。

スタート地点となる大島であい公園は、平成14年につくられた親水公園です。「猪名川」にふれあい楽しむことができるスポットとして、小さな子どもを連れたファミリーにも人気があります。

①島・春日神社

祭神は美声で知られる神「天子八根命」です。

春日神社裏の大師山には、四国八十八ヶ所霊場を模した石の仏像が八十八体ならんでおり、地元では「島のお大師さん」と親しまれています。江戸時代には、4月21日の大師講をはじめ、四国巡りと同等のご利益を求めてたくさんの方が、山道に点在する石仏にお参りを重ねてきました。



②大日堂

春日神社の隣には大日堂があり、その御本尊の大日如来は村人から牛馬の守り神としても信仰を集めています。堂前には嘉永3年（1850）銘の牛神像があり、昔、牛が農耕用に飼われていた頃、多くの方が牛を連れて、この牛神像の周りをまわって、子牛の無病息災を願っていたそうです。



③若城・浄瑠璃石碑

若城は島の東山の頂上にあつたとされる中世の山城。この麓には金比羅大権現を祀る社があります。また「笑楽軒壽蔵」と書かれた、明治45年（1912）に建立された浄瑠璃の石碑があります。笑楽軒壽蔵は島の平尾直祐が名乗った浄瑠璃の太夫の名前です。



④杉生・八坂神社（農村舞台）

祭神は素盞鳴尊（牛頭天王）で、村の氏神として信仰を集めています。

本殿は、江戸初期の建築で、昭和46年（1971）県指定文化財に指定されました。拝殿は、本殿に向かって中央に参道を持つ、割拝殿と呼ばれる形式です。また、拝殿は長床とも呼ばれ、農村舞台として使用されてきました。この長床の下には盆に心棒をさして回すこま回し式の舞台を備えていた痕跡があり、その昔人力で舞台を回していた名残を見ることができます。秋まつりの恒例行事として行われる「練り込み」は、町指定無形民俗文化財に指定され、子どもたちが歌舞伎の名場面を演じながら練り歩く「練り込み」を奉納します。

⑤景福寺

応安2年（1369）頃、曹洞宗本山の総持寺第五世をつとめた高名な禅僧である通幻禅師がこの地にやってきました。この地を曹洞宗布教の拠点とした後に有馬郡母子村（現在の三田市）永沢寺を創建されたと伝えられており、猪名川町六瀬地区に曹洞宗の檀家が多いのはこのためだと言われています。

通幻禅師の弟子の一人が、杉生において、景福寺を開山し、師である通幻禅師を初代住職として迎えました。御本尊は釈迦牟尼佛です。その後、景福寺が姫路・岡山・鳥取にも建てられ、「曹洞宗の四景福寺」と呼ばれるようになりました。

境内には、初夏から夏にかけて、平家物語の冒頭部分で有名な「沙羅双樹（さらそうじゅ）」に見立てられているナツツバキが咲き、裏の池では、珍しいモリアオガエルの卵塊を見ることができます。

